

経営比較分析表

岐阜県 白川町

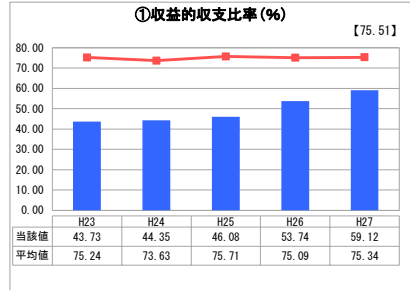
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	98.14	3,510

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
8,916	237.90	37.48
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
8,635	33.90	254.72

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



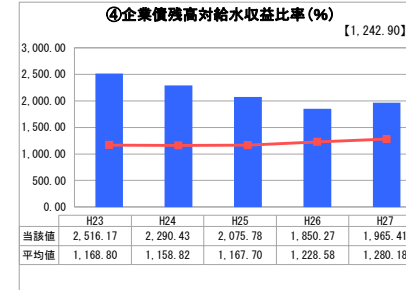
「単年度の収支」



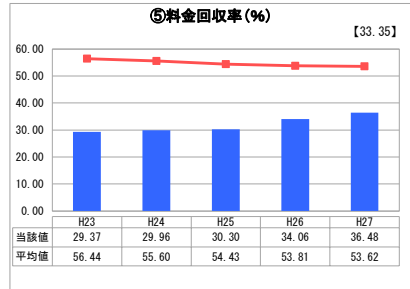
「累積欠損」



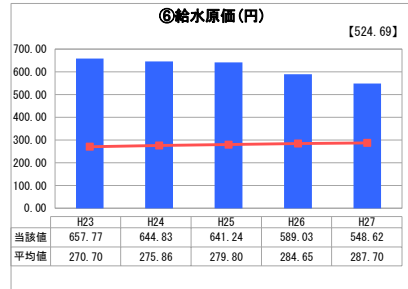
「支払能力」



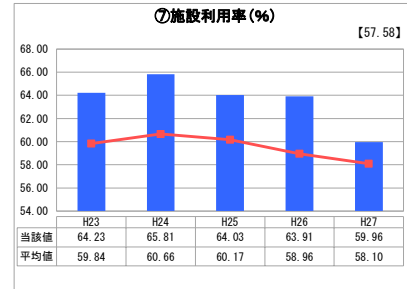
「債務残高」



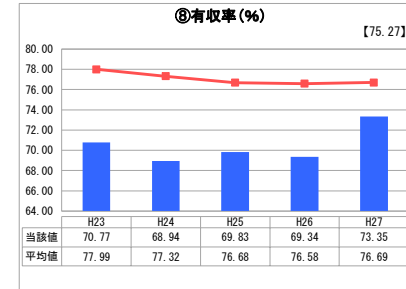
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

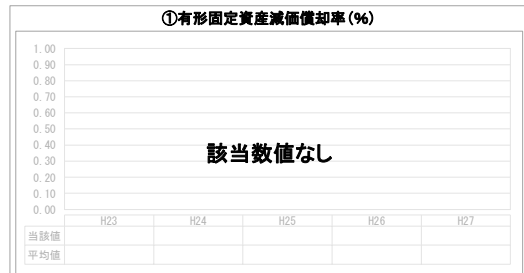


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

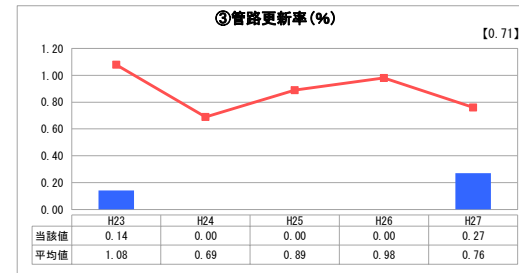
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本町の水道事業は、昭和40年に始まり、以来、事業規模を拡大、平成17年度末に水道整備が完了し、町内ほぼ全域で、安全で安心な水を安定的に供給できるようになった。その後10年間は小規模修繕のみの改良にとどめ、施設の長寿命化に努めてきたため、緩やかであるが収益的収支比率、料金回収率は右肩上がり、給水原価は右肩下がりととなっている。また、施設利用率は、給水人口の減少による使用水量の減少により右肩下がりとされている。平成27年度の有収率については、漏水対策強化の成果も見受けられ増加しているため、引き続き類似団体平均を目標に有収率の向上を図る。

2. 老朽化の状況について

平成17年度までの大規模改修事業により、企業債残高が増加し、その後10年間は小規模修繕のみの改良にとどめ施設の長寿命化に努めてきたため全体的に、施設が老朽化している。近年策定した更新計画に基づき、施設・設備の重要度や経年化による老朽を踏まえ、更新の優先順位を検討し、効率的な施設更新を図る。

全体総括

老朽化する施設・設備の維持管理、起債の償還、人口の減少等を勘案し、施設等の整備を進めるとともに、水道会計の健全運営のため、経費の節減と効率的な業務の執行に努め、経営環境の変化に適切に対応し、そのあり方を的確に捉えながら事業の進捗を図る。有収率については、施設整備を進める中で老朽経年管の布設替え工事の実施により、向上していくものと考えているが、引き続き早期有収率の向上に向けて漏水対策の強化を図る。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。